

## 6.25 「核燃サイクル撤退のとき」公開討論会で出た文書回答の要請項目

以下、6月25日のヒアリングにおいて出てきた、文書回答をお願いしたい項目です。ご回答のほど、よろしくお願ひいたします。回答は10日間をメドに、福山哲郎議員事務所にお送りいただくようお願いいたします。

I-2. 核燃料サイクル政策全体にこれまでかかった費用の内訳、および今後の費用の内訳を最新の数字で示して下さい。

### II-2. の関連

米国でも過去に「減容」(核変換技術)の模索の動きもあったが、着手する前に様々な試算を行っています。特に全米アカデミーが1996年に提出した報告書『核廃棄物：群分離と核変換技術』において、有意に「減容」させるには何機ものナトリウム冷却炉、150～200年の歳月、5000億ドルが必要になるとしています。日本もまずは本機で試算をして、それを公表するべきではないですか。

### III-3.

(1) 使用済みMOX燃料はフランスで再処理実績があるとのことでしたが、具体的に、いつ、どの施設で、どのような実績(試験結果)が得られたのか、具体的にご回答下さい。

(2) フランスにおいても高速炉の使用済み燃料を再処理する施設は廃止されており、世界のどこにも使用済みMOXを再処理できる施設は現存しないのではないですか。

IV-1. これまでにプルサーマルで何キログラムのプルトニウムを消費できたのか、数字を示して下さい。

IV-4. プルトニウムの希釈処分(ダウブレンドイング)について、日本は取り組む意志および計画はあるのか、政府の検討を示して下さい。

### V-1 に関連して追加質問

NUMOが各地の説明会で「ガラス固化はすでに成功している」旨述べているようだが、事実と異なる。NUMOがどのような説明の仕方をしているのかを調べ、説明資料を添えて回答して下さい。

### V-2.

使用済みMOX燃料の再処理コスト試算を数字で示し、それと直接処分とのコスト比較も具体的に示して下さい。